

延岡市教育委員会では学校の働き方改革を推進しています

日頃から、保護者・地域の皆様には、学校教育の充実にご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

教育委員会では、子どもたちへより良い教育を提供するため、教師が生き生きと教壇に立ち、子どもたちと接することができるよう、働きやすい環境づくりを進めています。

Q1 なぜ学校の働き方改革が求められているの？

A1 長時間勤務は、教師自身の心身に悪影響を及ぼすことや、教師のワーク・ライフ・バランスが確保されないなどの問題があります。

また、教師が事務作業に多くの時間をとられることにより、本来の授業の準備や児童生徒と十分に接する時間を確保できないという問題もあります。

このようなことから、本市では「学校の働き方改革」を推進し、教師が教育に専念できる環境を整えることで、子どもたちの健やかな成長につなげたいと考えています。

Q2 教師の勤務実態はどうなっているの？

A2 教育委員会が、延岡市立小・中・義務教育学校の教職員の勤務時間を調査したところ以下のような時間外勤務の実態が分かりました。

①【全小・中・義務教育学校の教職員の時間外勤務の状況（R5.4月～R6.1月 平均値）】

	●45h超 (%)			●80h超 (%)	
	小学校	中・義務教育学校		小学校	中・義務教育学校
校長	0	12.5	このうち・・・ →	校長	0
教頭	80.8	81.3		教頭	0
事務職員	0	0		事務職員	0
その他教職員	23.5	42.0		その他教職員	1.1

- 全ての教職員のうち、約3割が月45時間を超えて勤務しています。
- 全ての中学校の教職員のうち、おおよそ10人に1人が月80時間を超えて勤務しています。
- 全ての教頭のうち、約8割が月45時間を超えて勤務しています。

②【全小・中・義務教育学校の教職員の時間外勤務の状況（R5.4月とR5.10月比較）】

教職員の勤務実態調査（10月）の結果では、月当たりの時間外勤務時間が80時間以上に該当する教職員が、小学校では教職員全体の1.5%、中学校では教職員全体の13.3%でした。この結果は、本年度4月の調査結果に比べ、小学校で0.6%、中学校で4.5%低くなっており、時間外勤務時間が80時間以上に該当する教職員の割合は、減少傾向にあります。

- 小中学校とも減少傾向にはあるものの、依然として時間外勤務が多い中学校は、部活動と授業準備に多くの時間を費やしている状況です。

Q3 学校の働き方改革に向けた教育委員会の取組は何かあるの？

A3 教育委員会としましては、業務の適正化に加えて、学校の指導・運営体制の強化も図る観点から、市独自のスクール・サポート・スタッフ、スクールソーシャルワーカー、特別支援教育支援員、部活動指導員、学力向上支援員、読書活動推進員など、多様なスタッフの配置による人的支援を行っています。

また、管理職のマネジメント研修、スクールロイヤー事業、校務支援システムや指導者用パソコンの整備、時間外の電話に対応する取組など、市独自の取組も行っています。